

# 計 量 証 明 書

御依頼先

群馬県伊勢崎市下触町 8 8 4 - 1

株式会社神澤組

様

【測定項目：下流井戸（ダイオキシン類）】

平成29年1月24日にご依頼いただきました試料の試験結果を別紙の通り御報告致します。

発行日 平成 29 年 2 月 27 日

特定計量証明事業認定番号 N-0028-01  
計量証明事業登録（特定）群特第1号  
計量証明事業登録（濃度）環第5号  
計量証明事業登録（騒音）環第15号  
計量証明事業登録（振動）環第25号



株 式 会 社 神 澤 組 境 技 研



郵便番号 370-3511  
群馬県高崎市金古町1709-1  
TEL 027-372-5111  
FAX 027-372-5001

計量証明書番号 179079  
(管理番号 W-170113-01)

## 計 量 証 明 書

御依頼先 株式会社神澤組 様  
試料名 下流井戸  
試料採取位置 第2処分場井戸  
試料採取時刻 平成29年1月24日 12時10分 ~ 12時28分  
試料採取者 株式会社環境技研 温井・金田

## 計量結果

測定項目		測定値		
ダイオキシン類総量	実測濃度 pg/L		26	
	毒性等量 pg-TEQ/L	*	0.070	
	PCDDs総量	実測濃度 pg/L		19
		毒性等量 pg-TEQ/L	*	0.033
	PCDFs総量	実測濃度 pg/L		2.4
		毒性等量 pg-TEQ/L	*	0.034
Co-PCBs総量	実測濃度 pg/L		5.2	
	毒性等量 pg-TEQ/L	*	0.0033	

## 測定方法

ダイオキシン類 JIS K 0312:2008  
工業用水・工場排水中のダイオキシン類の測定方法

\* 毒性等量は、実測濃度が検出下限値以上の場合はそのまま、検出下限値未満の場合は検出下限値の1/2を用いて算出した。

毒性等量[pg-TEQ/L]は計量証明対象外です。

株式会社環境技研 計量証明事業登録特第1号	測定担当者 高岸	計量管理者 加田
--------------------------	-------------	-------------

## 環境水試料中のダイオキシン類測定結果

定量対象成分	単位	下流井戸			
		実測濃度	試料に おける 検出下限	試料に おける 定量下限	毒性等量
		(C s) pg/L	pg/L	pg/L	(TEQ) pg-TEQ/L
PCDDs	1, 3, 6, 8-TeCDD	3.1	0.01	0.05	
	1, 3, 7, 9-TeCDD	1.0	0.01	0.05	
	2, 3, 7, 8-TeCDD	< 0.01	0.01	0.05	× <sup>1</sup> < 0.005 >
	TeCDDs	4.2	0.01	0.05	
	1, 2, 3, 7, 8-PeCDD	< 0.01	0.01	0.05	× <sup>1</sup> < 0.005 >
	PeCDDs	0.85	0.01	0.05	
	1, 2, 3, 4, 7, 8-HxCDD	( 0.02 )	0.02	0.07	× <sup>0.1</sup> 0.002
	1, 2, 3, 6, 7, 8-HxCDD	( 0.05 )	0.02	0.07	× <sup>0.1</sup> 0.005
	1, 2, 3, 7, 8, 9-HxCDD	( 0.05 )	0.04	0.12	× <sup>0.1</sup> 0.005
	HxCDDs	0.58	0.02	0.07	
	1, 2, 3, 4, 6, 7, 8-HpCDD	0.74	0.006	0.019	× <sup>0.01</sup> 0.0074
	HpCDDs	1.5	0.006	0.019	
	OCDD	11	0.06	0.20	× <sup>0.0003</sup> 0.0033
	Total PCDDs	19			0.033
PCDFs	1, 2, 7, 8-TeCDF	( 0.03 )	0.01	0.04	
	2, 3, 7, 8-TeCDF	( 0.03 )	0.01	0.04	× <sup>0.1</sup> 0.003
	TeCDFs	0.68	0.01	0.04	
	1, 2, 3, 7, 8-PeCDF	( 0.03 )	0.02	0.06	× <sup>0.03</sup> 0.0009
	2, 3, 4, 7, 8-PeCDF	( 0.03 )	0.01	0.04	× <sup>0.3</sup> 0.009
	PeCDFs	0.40	0.01	0.04	
	1, 2, 3, 4, 7, 8-HxCDF	( 0.06 )	0.02	0.07	× <sup>0.1</sup> 0.006
	1, 2, 3, 6, 7, 8-HxCDF	0.05	0.01	0.05	× <sup>0.1</sup> 0.005
	1, 2, 3, 7, 8, 9-HxCDF	< 0.02	0.02	0.06	× <sup>0.1</sup> < 0.001 >
	2, 3, 4, 6, 7, 8-HxCDF	0.06	0.01	0.04	× <sup>0.1</sup> 0.006
	HxCDFs	0.52	0.01	0.04	
	1, 2, 3, 4, 6, 7, 8-HpCDF	0.23	0.01	0.04	× <sup>0.01</sup> 0.0023
	1, 2, 3, 4, 7, 8, 9-HpCDF	( 0.03 )	0.03	0.08	× <sup>0.01</sup> 0.0003
	HpCDFs	0.47	0.01	0.04	
OCDF	0.33	0.02	0.08	× <sup>0.0003</sup> 0.000099	
Total PCDFs	2.4			0.034	
Total (PCDDs + PCDFs)	21			0.066	
Co-PCBs	3, 4, 4', 5-TeCB (#81)	0.021	0.006	0.019	× <sup>0.0003</sup> 0.0000063
	3, 3', 4, 4'-TeCB (#77)	0.36	0.02	0.07	× <sup>0.0001</sup> 0.000036
	3, 3', 4, 4', 5-PeCB (#126)	( 0.028 )	0.009	0.031	× <sup>0.1</sup> 0.0028
	3, 3', 4, 4', 5, 5'-HxCB (#169)	< 0.02	0.02	0.06	× <sup>0.03</sup> < 0.0003 >
	Total ノンオルト体	0.41			0.0031
	2', 3, 4, 4', 5-PeCB (#123)	0.08	0.02	0.08	× <sup>0.00003</sup> 0.0000024
	2, 3', 4, 4', 5-PeCB (#118)	2.7	0.01	0.03	× <sup>0.00003</sup> 0.000081
	2, 3, 3', 4, 4'-PeCB (#105)	1.2	0.04	0.12	× <sup>0.00003</sup> 0.000036
	2, 3, 4, 4', 5-PeCB (#114)	0.09	0.02	0.08	× <sup>0.00003</sup> 0.000027
	2, 3', 4, 4', 5, 5'-HxCB (#167)	0.18	0.02	0.08	× <sup>0.00003</sup> 0.000054
	2, 3, 3', 4, 4', 5-HxCB (#156)	0.36	0.02	0.06	× <sup>0.00003</sup> 0.000108
2, 3, 3', 4, 4', 5'-HxCB (#157)	0.09	0.02	0.07	× <sup>0.00003</sup> 0.000027	
2, 3, 3', 4, 4', 5, 5'-HpCB (#189)	0.04	0.01	0.03	× <sup>0.00003</sup> 0.000012	
Total モノオルト体	4.8			0.0014	
Total Coplanar PCBs	5.2			0.0033	
Total ダイオキシン類	26			0.070	

## 測定記録

1. 試料採取時立会い者：株式会社神澤組 千明様
2. 分析に使用した試料量 10.00 L
3. 計量を実施した期間：平成29年1月24日～平成29年2月27日
4. 試料の採取、前処理、分析などの計量証明事業の工程の一部を自ら行っていない場合には、その業務の内容及びその業務に従事した事業所名、所在地を以下に示す。

外注業務	外注業務なし
外注業者	
所在地	

気温： 3.0℃  
 水温： 12.8℃  
 臭気： 無臭  
 外観： 無色透明

- 注) 1. 実測濃度 (C<sub>s</sub>)：ダイオキシン類濃度 (pg/L)
2. 毒性等量 (TEQ)：2,3,7,8-TeCDD毒性等量 (pg-TEQ/L)
3. 毒性等価係数 (TEF)：ダイオキシン類対策特別措置法施行規則（総理府第六十七号）による。
4. 実測濃度中の ( ) 付の数値は、検出下限値以上定量下限値未満の濃度であることを示す。
5. 実測濃度の欄において、検出下限値未満であった場合は検出下限値 (<検出下限値) を表示。
6. 毒性等量(TEQ)は、検出下限値以上定量下限値未満の値はそのまま、検出下限値未満の値は検出下限値の1/2を用いて算出したものである。
7. 試料採取者が「\*\*\*\*様持ち込み試料」となっている試料の採取に関しては、当社は関知しておりません。

## ダイオキシン類基準値

試料種	基準値	
排水	10	pg-TEQ/L
環境水	1	pg-TEQ/L
水道水	1	pg-TEQ/L
土壌	1000	pg-TEQ/g
底質	150	pg-TEQ/g
焼却灰	3	ng-TEQ/g
ばいじん	3	ng-TEQ/g
環境大気	0.6	pg-TEQ/m <sup>3</sup>

## 用語の定義

- 異性体 : 異性の関係にある化合物。ここでは、塩素の置換した数と位置によってPCDDs75種類、PCDFs135種類、PCBs209種類の異なった分子構造の化合物が存在する。
- 同族体 : 塩素の数が同じで置換位置だけを異にする化合物の一群を指す。
- PCDDs : ポリクロロジベンゾーパラージオキシン
- PCDFs : ポリクロロジベンゾフラン
- TeCDDs : テトラクロロジベンゾーパラージオキシン
- PeCDDs : ペンタクロロジベンゾーパラージオキシン
- HxCDDs : ヘキサクロロジベンゾーパラージオキシン
- HpCDDs : ヘプタクロロジベンゾーパラージオキシン
- OCDD : オクタクロロジベンゾーパラージオキシン
- TeCDFs : テトラクロロジベンゾフラン
- PeCDFs : ペンタクロロジベンゾフラン
- HxCDFs : ヘキサクロロジベンゾフラン
- HpCDFs : ヘプタクロロジベンゾフラン
- OCDF : オクタクロロジベンゾフラン
- PCB : ポリクロロビフェニル
- Co-PCB : コプラナーPCBとは、PCBsの中でダイオキシン類と同様の毒性をもつ異性体を指す。共平面構造型塩化ビフェニルでオルト位に塩素が配位していないもの、1つあるいは2つ配位しているもので14種類（ジオルト体を除くと12種類）を規定する。
- TEF : 毒性等価係数 (2, 3, 7, 8-TeCDD Toxicity Equivalency Factor)  
2, 3, 7, 8-TeCDDの毒性を1とし、他の2, 3, 7, 8-位置に塩素が置換した異性体の毒性を係数により表したものの。
- TEQ : 毒性等量 (2, 3, 7, 8-TeCDD Toxicity Equivalency Quantity)  
2, 3, 7, 8-位置に塩素が置換した異性体の実測濃度にTEFを乗じて、その濃度を毒性の最も強い2, 3, 7, 8-TeCDDとしての濃度に換算したものの。
- Cs : 実測濃度 採取した検体中の実際の被検物質濃度。
- C : 換算濃度 排ガス試料について、助燃空気の吹き込み等に伴う排ガスの希釈の影響を無くし、ダイオキシン類濃度の評価をしやすくするため、排ガス中の酸素濃度を12%となるようにして換算した濃度。
- 下限値 : 分析精度上、一定の信頼性が担保されるべき最小検出濃度で、この値以下で被検物質が存在する可能性があっても不検出とする。
- RRF : 相対感度係数
- 1ng : 1ナノグラム 0.000000001g (10億分の1)
- 1pg : 1ピコグラム 0.000000000001g (1兆分の1)
- 1m<sup>3</sup> : 1立方メートル 標準状態 (0°C、101.32kPa) における1立方メートルの気体体積
- 1ng/m<sup>3</sup> : 1ナノグラム毎立方メートル 試料1m<sup>3</sup>中に1ngの被検物質が存在する濃度
- 1ng/g : 1ナノグラム毎グラム 試料1g中に1ngの被検物質が存在する濃度
- 1ng/L : 1ナノグラム毎リットル 試料1L中に1ngの被検物質が存在する濃度

## ダイオキシン類濃度計算式

$$RRF_{cs} = \frac{Q_{cs}}{Q_s} \times \frac{A_s}{A_{cs}}$$

$Q_{cs}$  : 標準液中のクリーンアップスパイク内部標準物質の量  
 $Q_s$  : 標準液中の分析対象物質の量  
 $A_s$  : 標準液中の分析対象物質のピーク面積  
 $A_{cs}$  : 標準液中のクリーンアップスパイク内部標準物質のピーク面積

$$Q_i = \frac{A_i}{A_{csi}} \times \frac{Q_{csi}}{RRF_{cs}}$$

$Q_i$  : 抽出液全量中の異性体の量  
 $A_i$  : クロマト上の異性体のピーク面積  
 $A_{csi}$  : 対応するクリーンアップスパイク内部標準物質のピーク面積  
 $Q_{csi}$  : 対応するクリーンアップスパイク内部標準物質の添加量  
 $RRF_{cs}$  : 対応するクリーンアップスパイク内部標準物質との相対感度

$$C_i = (Q_i - Q_t) \times \frac{1}{V}$$

$C_i$  : 試料中の異性体の濃度  
 $Q_i$  : 抽出液全量中の異性体の量  
 $Q_t$  : 空試験での異性体の量  
 $V$  : 試料の採取量

$$RRF_{rs} = \frac{Q_{rs}}{Q_{cs}} \times \frac{A_{cs}}{A_{rs}}$$

$Q_{rs}$  : 標準液中のシリンジスパイク内部標準物質の量  
 $Q_{cs}$  : 標準液中のクリーンアップスパイク内部標準物質の量  
 $A_{cs}$  : 標準液中のクリーンアップスパイク内部標準物質のピーク面積  
 $A_{rs}$  : 標準液中のシリンジスパイク内部標準物質のピーク面積

$$RRF_{ss} = \frac{Q_{cs}}{Q_{ss}} \times \frac{A_{ss}}{A_{cs}}$$

$Q_{cs}$  : 標準液中のクリーンアップスパイク内部標準物質の量  
 $Q_{ss}$  : 標準液中のサンプルリングスパイク内部標準物質の量  
 $A_{ss}$  : 標準液中のサンプルリングスパイク内部標準物質のピーク面積  
 $A_{cs}$  : 標準液中のクリーンアップスパイク内部標準物質のピーク面積

$$R_c = \frac{A_{csi}}{A_{rsi}} \times \frac{Q_{rsi}}{RRF_{rs}} \times \frac{100}{Q_{csi}}$$

$R_c$  : クリーンアップスパイク回収率  
 $A_{csi}$  : クリーンアップスパイク内部標準物質のピーク面積  
 $A_{rsi}$  : 対応するシリンジスパイク内部標準物質のピーク面積  
 $Q_{rsi}$  : 対応するシリンジスパイク内部標準物質の添加量  
 $RRF_{rs}$  : 対応するシリンジスパイク内部標準物質との相対感度  
 $Q_{csi}$  : クリーンアップスパイク内部標準物質の添加量

$$R_s = \frac{A_{ssi}}{A_{csi}} \times \frac{Q_{csi}}{RRF_{ss}} \times \frac{100}{Q_{ssi}}$$

$R_s$  : サンプルリングスパイク回収率  
 $A_{ssi}$  : サンプルリングスパイク内部標準物質のピーク面積  
 $A_{csi}$  : 対応するクリーンアップスパイク内部標準物質のピーク面積  
 $Q_{csi}$  : 対応するクリーンアップスパイク内部標準物質の添加量  
 $RRF_{ss}$  : 対応するクリーンアップスパイク内部標準物質との相対感度  
 $Q_{ssi}$  : サンプルリングスパイク内部標準物質の添加量

## 1. ダイオキシン類分析条件

### 1) GC部 HP 6890

a) 測定対象：TeCDD～OCDD, TeCDF～OCDF

HxCB, HpCB

使用カラム：BPx-DXN (60m×0.25mm, Id) SGE社

注入口温度：280℃

イオン源温度：280℃

注入方法：スプリットレス (90sec)

カラム温度：

130℃ (1min)  $\xrightarrow{15^\circ\text{C}/\text{min}}$  210℃ (1min)  $\xrightarrow{3^\circ\text{C}/\text{min}}$  310℃ (15min)  $\xrightarrow{5^\circ\text{C}/\text{min}}$  320℃ (9min)

b) HxCDD～OCDD, TeCDF～OCDF

TeCB～HpCB

使用カラム：RH-12ms (60m×0.25mm, Id) INVENTX社

注入口温度：280℃

注入方法：スプリットレス (90sec)

イオン源温度：280℃

カラム温度：

120℃ (1min)  $\xrightarrow{20^\circ\text{C}/\text{min}}$  240℃ (0min)  $\xrightarrow{3^\circ\text{C}/\text{min}}$  285℃ (0min)  $\xrightarrow{5^\circ\text{C}/\text{min}}$  310℃ (3min)

### 2) MS部

日本電子 JMS-700

イオン化法：EI

分解能：10,000以上

イオン化電流：500  $\mu$  A

イオン加速電圧：10kV

電子加速電圧：38eV

検出方法：ロックマス方式によるSIM法

## 2. 定性及び定量方法

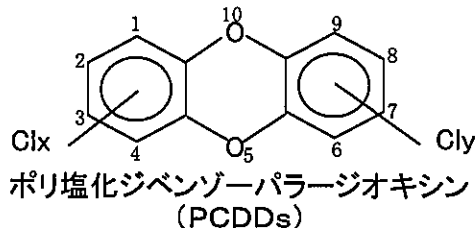
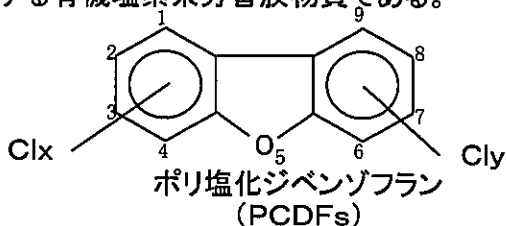
分析試料を0.5～2  $\mu$  L分取し、GC/MSに注入した。得られたSIMクロマトグラム上の2つのモニターイオン質量数ピークの保持時間が同じであり、面積比が標準品とほぼ同じで同位体存在比から推定されるイオン強度比に対して±15% (検出下限の3倍以下の濃度では±25%) 以内であればそのピークをダイオキシン類として定量した。



## 参考資料 ダイオキシン類について(略説)

ダイオキシン類(ダイオキシン類対策特別措置法 2000. 1. 15施行)に関し、その構造式等を以下に示す。

(1)ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDFs)、ポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン(PCDDs)は下記の構造を有する有機塩素系芳香族物質である。



上記の構造式からも分かるように、それぞれジベンゾフランとダイオキシンの基本骨格上に1~8個の塩素原子が置換した分子の総称である。

塩素原子の置換した位置および数によって16個の同族体と210個の異性体が存在する。

以下に同族体情報(分子量、異性体の数等)を示す。

なお、分析対象となるPCDFsとPCDDsは毒性等価係数(TEF)を有する異性体(2, 3, 7, 8-位置置換異性体17個)を含む4~8塩化体の136異性体である。

PCDFsの同族体情報

塩素数	英名	同族体略号	分子式	分子量*	異性体の数
1	monochloro**	MoCDF	C <sub>12</sub> H <sub>7</sub> ClO	202	4
2	dichloro	DiCDF	C <sub>12</sub> H <sub>6</sub> Cl <sub>2</sub> O	236	16
3	trichloro	TrCDF	C <sub>12</sub> H <sub>5</sub> Cl <sub>3</sub> O	270	28
4	tetrachloro	TeCDF	C <sub>12</sub> H <sub>4</sub> Cl <sub>4</sub> O	304	38
5	pentachloro	PeCDF	C <sub>12</sub> H <sub>3</sub> Cl <sub>5</sub> O	338	28
6	hexachloro	HxCDF	C <sub>12</sub> H <sub>2</sub> Cl <sub>6</sub> O	372	16
7	heptachloro	HeCDF	C <sub>12</sub> H <sub>1</sub> Cl <sub>7</sub> O	406	4
8	octachloro	OCDF	C <sub>12</sub> Cl <sub>8</sub> O	440	1
					計 135

\* Cl=35として計算し、小数点以下は省略した。

\*\* 厳密にはPCDFではないが、アメリカ合衆国EPA等に準じてPCDFsに含めた。

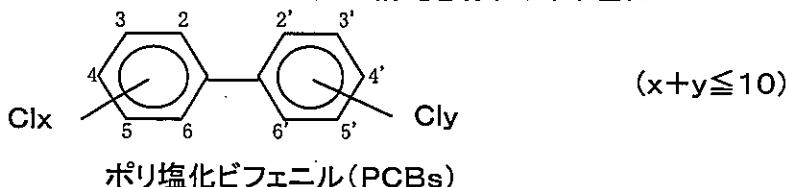
PCDDsの同族体情報

塩素数	英名	同族体略号	分子式	分子量*	異性体の数
1	monochloro**	MoCDD	C <sub>12</sub> H <sub>7</sub> ClO <sub>2</sub>	218	2
2	dichloro	DiCDD	C <sub>12</sub> H <sub>6</sub> Cl <sub>2</sub> O <sub>2</sub>	252	10
3	trichloro	TrCDD	C <sub>12</sub> H <sub>5</sub> Cl <sub>3</sub> O <sub>2</sub>	286	14
4	tetrachloro	TeCDD	C <sub>12</sub> H <sub>4</sub> Cl <sub>4</sub> O <sub>2</sub>	320	22
5	pentachloro	PeCDD	C <sub>12</sub> H <sub>3</sub> Cl <sub>5</sub> O <sub>2</sub>	354	14
6	hexachloro	HxCDD	C <sub>12</sub> H <sub>2</sub> Cl <sub>6</sub> O <sub>2</sub>	388	10
7	heptachloro	HeCDD	C <sub>12</sub> H <sub>1</sub> Cl <sub>7</sub> O <sub>2</sub>	422	2
8	octachloro	OCDD	C <sub>12</sub> Cl <sub>8</sub> O <sub>2</sub>	456	1
					計 75

\* Cl=35として計算し、小数点以下は省略した。

\*\* 厳密にはPCDDではないが、アメリカ合衆国EPA等に準じてPCDDsに含めた。

(2) コプラナーポリ塩化ビフェニルは下記の構造を有するポリ塩化ビフェニル(PCBs)のうち



① オルト位(2, 2', 6および6')に置換塩素をもたないもの(ノンオルト体)

② オルト位に1個置換塩素をもつ(モノオルト体)

③ オルト位に2個置換塩素をもつ(ジオルト体)

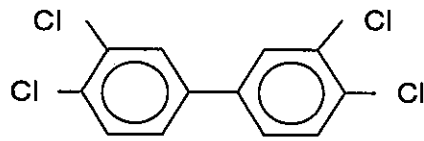
上記①~③で4塩化体以上の異性体の数種類は共平板状(コプラナー)の構造を示す有機塩素系芳香族物質である。

PCBs置換塩素の数や位置によって理論的に209種類の異性体が存在する。

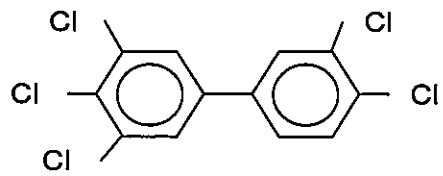
またこのPCBsには各異性体すべてにIUPAC番号がつけられている。

次頁にCo-PCBsの構造式を示す。

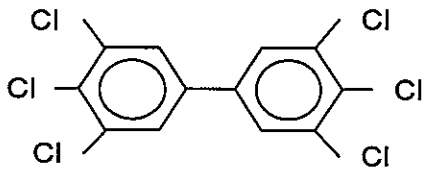
(このうちジオルト体の2つの異性体はダイオキシン類対策特別措置法には含まれていない。)



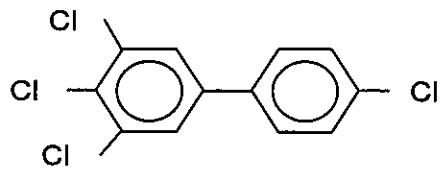
3,3',4,4'-T<sub>4</sub>CB (#77)



3,3',4,4',5-P<sub>5</sub>CB (#126)

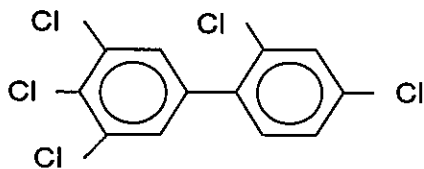


3,3',4,4',5,5'-H<sub>6</sub>CB (#169)

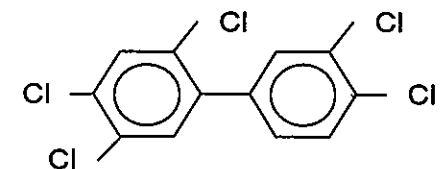


3,4,4',5-T<sub>4</sub>CB (#81)

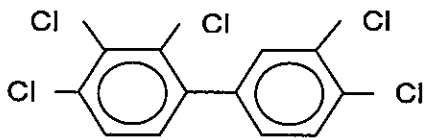
ノンオルト体



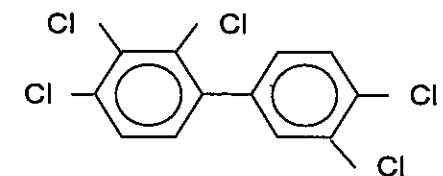
2,3,4,4',5-P<sub>5</sub>CB (#123)



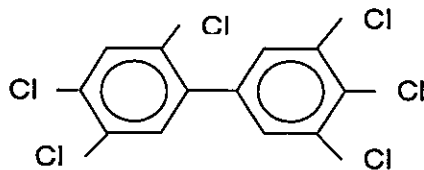
2,3',4,4',5-P<sub>5</sub>CB (#118)



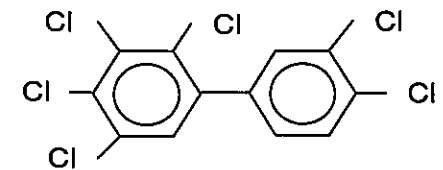
2,3,3',4,4'-P<sub>5</sub>CB (#105)



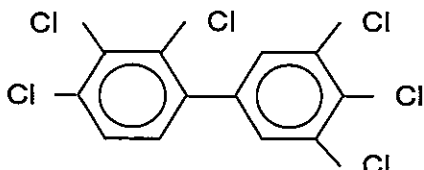
2,3,4,4',5-P<sub>5</sub>CB (#114)



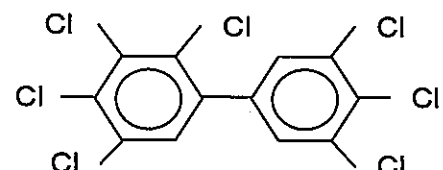
2,3,4,4',5,5'-H<sub>6</sub>CB (#167)



2,3,3',4,4',5-H<sub>6</sub>CB (#156)

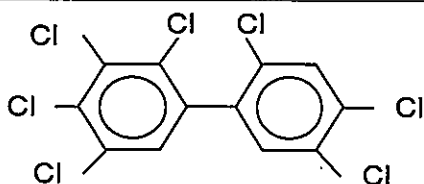


2,3,3',4,4',5'-H<sub>6</sub>CB (#157)

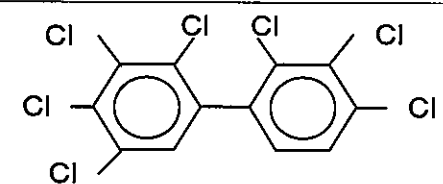


2,3,3',4,4',5,5'-H<sub>7</sub>CB (#189)

モノオルト体



2,2',3,4,4',5,5'-H<sub>7</sub>CB (#180)



2,2',3,3',4,4',5-H<sub>7</sub>CB (#170)

ジオルト体